

令和4年度第1回ゼニガタアザラシ科学委員会 議事要旨

日時：令和4年7月19日（火）

※新型コロナウイルスの影響により開催方法を対面及びWEB参加から書面に変更した。

<委員会運営>

1. 委員の交代について

書面にて、「資料1 ゼニガタアザラシ科学委員会設置要綱(案)」に基づき、委員の交代及び新委員について報告した。

2. 新委員長の選出について

書面にて、「資料1 ゼニガタアザラシ科学委員会設置要綱(案)」に基づき、新委員長の選出及び提案を行った。

(質問、意見 特になし)

<議事>

議事1：令和4(2022)年度事業の実施状況（速報の報告）

書面にて、「資料2 令和4(2022)年度事業実施状況(速報)」に基づいて報告した。

【主な意見・質問】

『2) 春定置の漁獲情報』について

・過去2年間ほどと比べ、サケ・マス類の漁獲量が増えたことは朗報である。より以前の漁獲量とも比較できる図がほしい。

→2017年から2022年までの春定置の漁獲量は下記のとおり。今年度の漁獲量についても4月及び7月の情報を加えた。全魚種の漁獲量は年々増加傾向にある。一方で、単価の高いトキシラズの漁獲量が減少傾向にある。今年度のサケ・マス類漁獲量は2018年と同程度であった。（事務局）

表：えりも地域春定置 概算漁獲量（4～7月）

	全魚種 (ト)	サケ・マス類 (ト)					その他
		サケ・マス合計	カラマス	サケマス	トキシラズ	マス/サ	
2017年	440.1	48.5	0.1	16.8	31.2	0.3	ほぼ0
2018年	922.6	204.5	134.2	32.7	37.3	0.2	ほぼ0
2019年	741.0	93.2	26.4	36.7	29.8	0.3	ほぼ0
2020年	1064.0	57.2	0.4	34.6	21.9	0.2	ほぼ0
2021年	1104.4	80.8	27.2	48.0	5.1	0.4	ほぼ0
2022年	1348.3	173.3	83.5	73.2	13.6	2.5	0.6

・春定置の被害状況について記載されているが、あくまでも目で見える(数字で表されている)被害であって、網に入網出来なかったなどの目に見えない被害もあると考える。

→統計に表れない目に見えない被害があることは承知。個体数管理等で目に見える被害を減少させることで関連する見えない被害も減少させたいと考えている。（事務局）

・令和3年度の春定置ではホッケが11%とれていたが、令和4年度にはホッケは0%か。それとも、その他の2%に含まれているのか。

→「図3についてホッケの漁獲量はその他に含まれている。ホッケが全魚種に占める割合は約0.01%

の約 150kg である。」（事務局）

『3) 被害防除対策』について

- ・防除格子網を設置した定置の被害率が 1/3 に減ったことは重要である。本文中の数字ではなく、表で過去と比較できるとなお良い。また、漁獲量、被害額、被害率など 1 年毎のデータでなく、過去との比較も資料にほしい。
- 漁獲量、被害額、被害率などのデータは中間評価で討議してご提示したい。（事務局）

『4) 個体群管理』について

- ・現在のポケット網の網地材料はナイロンかテトロンか。もしそうであれば、ハイゼックスなどの比重の軽い網地（おそらく襟裳の定置の網地も同じであると思う）にすることで水中での形状維持が多少楽になるかもしれない。
- 素材はテトロン。今後ポケット網を設置する場合は、ポケット網を吊る支点を増やすなどロープに絡まらない工夫を施すよう検討している。ロープに絡まらなければ、ポケット網浮力維持のため更に大型の浮きを設置できると考えている。（事務局）

- ・捕獲罟で死亡していたゼニガタアザラシは何頭か。また、それらはすべてポケット網内で捕獲された個体かどうか、分かるように記載してほしい。
- 死亡個体は 6 頭であり、すべてポケット網内からの捕獲である。上記のように今後ポケット網を設置する場合は、より大型の浮きが設置できるよう工夫して捕獲時点での死亡を抑えたいと考えている。（事務局）

- ・ゼニガタアザラシの成獣を順調に捕れるようになったことも大きな成果である。雌が多いのは個体数調整としては有効（個体群モデルで吟味）である。また、捕獲枠と捕獲数の経年変化のグラフがほしい。捕獲数は幼獣、1 歳以上雌、雄の内訳があるとよい。
- 捕獲目標と捕獲頭数については資料 2 別紙のグラフにご提示した。捕獲個体の年齢構成は精査中で暫定版としていることから、内訳を表示しないが精査後中間評価等でご提示したい。（事務局）

- ・ゼニガタアザラシの混獲個体が異常に少ない気がするが、何か要因として考えられるのか。
- 4 月上旬にえりも周辺海域でシャチの出没情報があった。この影響でゼニガタアザラシの出産が阻害された可能性がある。4 月中に実施したドローンセンサスでは襟裳岬岩礁に加えて、ゼニガタアザラシの雌が出産のため利用している襟裳岬西側岩礁でも例年より確認できた個体が少なかった。なお、5 月中は例年通りの個体数を確認することができた。今年と昨年の刺し網で捕獲された pup を比較すると、今年は実施日が 2 週間以上遅かったにもかかわらず平均重量はほぼ同じであった。したがって、今年は昨年より成長が遅く遊泳能力が低かったため、多くの定置網事業者が操業を終える 6 月中までに混獲が少なかった可能性がある。（事務局）

【刺し網捕獲の実績（pup）】

令和 4 年度 実施日 6 月 2 日、11 頭捕獲、平均重量約 35kg

令和 3 年度 実施日 6 月 19 日、11 頭捕獲、平均重量約 35kg

『5) モニタリング』について

- ・上陸個体数について、ドローン画像の自動計測で 9 割検出できれば、人間は残り 1 割数えればよいので効率がよい。
- 上陸個体数把握の迅速化と精度向上を目的に実用化を目指していきたい。（事務局）

・漁業被害意識について、事業者に丁寧にヒアリングしたのは良かったと思う。今後の被害対策についても彼らの意見を聞きたい。

→秋定置操業期間中に襟裳岬以東の事業者にもヒアリングを実施する予定。ヒアリング結果を取りまとめた後にご紹介したい。（事務局）

・アメリカ・メイン州で、鳥インフルエンザが理由だと思われるアザラシのストランディングがあるとのことでした(<https://www.nytimes.com/2022/07/06/science/bird-flu-seals.html>)。人獣共通感染症を調べる際に、鳥インフルエンザも調べることは可能か。

→関係者と調査が実施できるか検討する。（事務局）

議事 2：えりも地域ゼニガタアザラシ特定希少鳥獣管理計画(第 2 期)の中間評価について

書面にて、中間評価にかかる作業を進めるために、現在設置している「モニタリング作業部会」に作業を諮問し、2回の部会議論で中間評価案をとりまとめ、科学委員会に報告する案を提示していることを説明した。

（「モニタリング作業部会」での作業について反対意見なし）

【主な意見】

・令和 4 年 8 月【部会】中間評価(素案)の質疑・意見とりまとめについては、素案がどれに相当するのか、また文面だけではどの程度の努力量を 8 月までに払わなければならないのか読み解けない印象である。

→本委員会では中間評価(素案)を提出していないが、今後開催予定のモニタリング作業部会に中間評価(素案)を提出して質疑・意とりまとめを実施したい。（事務局）

・1 期目に懸念した個体数調整はほぼ達成しつつあると思う。個体数調整という手段がこの 2 年ほどで漸く成功し、被害率の最低限の指標化(まだ襟裳全体ではない)はできていると思う。ただし、いつまでも個体数を減らすのではなく、被害を減らす捕り方を探ることが 2 期目までの重要な目標であり、その部分は未完成である。漁業者にもアイデアを募りつつ、被害が多い網の傍で(銃猟を含め)何をするかを考えたい。作業部会で議論するが、部会員以外の参加も歓迎し、よいアイデアを探りたい。

→えりも地域全体の被害率の把握は漁業者へのアンケート調査を実施しており、加えて特に被害が著しい定置網で乗船調査を実施している。各調査で取得した被害量や被害率は中間評価で討議したいと考えています。定置網による捕獲が順調に推移していることで、被害をもたらしている個体を優先的に捕獲できるようになってきたと考えている。各関係者からご意見を頂いて、その他の対策についても検討をしていく。（事務局）

議事 3：その他について

【主な意見】

・ステータスレポート構想(2021/8/6 資料 5)は是非実現したい。服部編(2020)「日本の鰭脚類」に小林委員と羽山委員がすでにゼニガタについて 1 章ずつ執筆している。個体群動態は北門委員が報告書をまとめている。序文と感染症と気候変動と襟裳岬海域の漁業の節をお願いできれば、可能であろう。編集作業については、必要であればお手伝いさせて頂く。

→松田先生ご指導のもと執筆担当やスケジュールをあらためて確認したい。（事務局）

・漁業者の代表としては、漁獲量をこれ以上減少させないこと、またゼニガタアザラシによる被害

を減少させてもらいたい。ゼニガタアザラシの被害軽減に向けた技術開発の進展を早急に要望したい。

→漁業被害軽減のため個体群管理、非致命的防除、モニタリングに関する技術向上に努める。また、漁業者へのヒアリングや委員からのご意見を募り、新たな被害軽減技術についても検討を進める。
(事務局)

【今後の方針】

- ・各種データを整理して中間評価を作成する。
- ・ゼニガタアザラシに鳥インフルエンザの感染検査が実施できるか検討する。
- ・松田委員の進行のもと、ステイタスレポートの制作作業を再開する。